

7) 側溝対策

側溝ではカエル類や昆虫類などの小動物が落下し、這い出せずに斃死するケースが多い。目立たない現象ですが、移動路が分断されるなど、生態系に及ぼす影響が大きい。

2011年5月13日に新規に設置された側溝（幅60cm、深さ40cm）内で、次のような動物が這い出せずに死んでいました。

・タゴガエル、オサムシ類、ヒシバッタ科 sp.、ヤスデ綱 sp.、ミミズ類など

対策として2012年に、一部の側溝の端末に這い出し構造が設置されました（写真5.2.22）。

また、2018年5月17日にメガソーラー敷地内の側溝（幅30cm、深さ30cm）で落下動物を確認したところ、ダンゴムシ類をはじめ、カメムシ類などの昆虫のほか、ニホンカナヘビやサワガニなどが見られました（写真5.2.20）。

今後、新たに側溝や集水桝を作る場合は、小動物が這い出せる構造が望まれます。また、既存の側溝、集水桝においても、蓋の設置や這い出し構造の追加などの改善を施すことにより、小動物の落下を防止する必要があります。なお、対策の一環として、2021年には多目的スポーツレクリエーション広場の側溝の一部に延長3mのコンクリートの蓋が設置されました（写真5.2.21）。

			
落下動物：サワガニ 2018. 5. 17	落下動物：タゴガエル、 死骸 2011. 5. 13	落下動物：オサムシ類 2011. 5. 13	落下動物： 左上 ツチカメムシ類(左) ダンゴムシ類(右) 2018. 5. 17

写真 5. 2. 20 側溝内の落下動物

		
多目的広場の側溝、蓋の設置、対策 済 2019. 3. 29	同左 2020. 9. 15	多目的広場の側溝、端末（斜路の設 置）対策済 2021. 8. 21
		
端末を這い出し可能構造（斜路の設置） とした側溝 動物移動路部 2012. 4. 26	広場の側溝、幅40cm、深さ30cm、 未対策部。小動物が落下、斃死、移 動路の分断などを招く 2021. 4. 6	同左、側溝の一部に延長3mのコン クリートの蓋が設置された 2021. 4. 6

写真 5. 2. 21 側溝対策

6. まとめ

これまでの内容をまとめると以下ようになります。

- ・田代地区は矢倉山北側の盆地部に位置し、数軒の集落から成る自然豊かな里山でした。
- ・新東名高速道路建設（トンネル工事）の残土処理地として、2001年から埋め立てられ、2009年に完了（中日本高速道路株式会社）、その後、島田市が開発・整備を行いました。
- ・埋め立て工事前から埋め立て中、埋め立て工事後にわたる継続調査（1996～2021年：延べ26年間）、有識者による委員会の開催（延べ28回）を通して、最適な自然環境保全対策が検討・提案されました。その結果、様々な自然環境保全対策が実施され、田代地区の生態系の保全に努めてきました。
- ・その際の基本方針は「特定種や注目種の保全にとどまらず、対象地域の自然環境（生態系）を一つの生態系として捉え、この生態系の特徴を極力損なわないこと。」としました。また、「改変前の多様な里山環境の維持、保全、復元」を目標としました。
- ・自然環境調査の結果、田代地区の生態系を特徴づけている主要な環境要素としては、「盆地地形」、「周辺樹林」、「湿生草地」、「沢部水系：海との連続性」などが挙げられ、その保全対策が講じられました。
- ・その結果、これまでの生態系の質は一定程度低下しましたが、かなりの程度維持されていることが判明しました。
- ・具体的には、クマタカをはじめとするワシタカ類の保全対策、2カ所の沢部及びその周辺樹林の保全、調整池周辺における湿地環境（止水域と湿生草地）の復元、水路対策による海との連続性の確保や水域環境の復元・保全などです。なかでも2カ所の沢をその周辺樹林を含めて全体として保全したことは、田代地区の自然（生態系）の質を維持する上で非常に大きな効果を上げたと評価できます。
- ・現在、常緑広葉樹林（コジイ（ツブラジイ）、アラカシなど）や、落葉広葉樹林（コナラ、アベマキ、ヤマザクラ（特に春の開花期は美しい）など）がまとまって残存し、また、調整池といった水環境の存在と相まって豊かな環境が生まれ、イノシシ、カモシカ、ニホンジカなどの哺乳類、クマタカ、オオタカ、サシバ、ハチクマなどのワシタカ類（生態系の上位種）、アカシヨウビン、サンシヨウクイ、キビタキ、オオルリなどの樹林性の夏鳥、モリアオガエル、ツチガエル、カジカガエルなどのカエル類、カワムツ、ニシシマドジョウなどの魚類、ゲンジボタル、ヘイケボタルなどの昆虫類、そのほかモクズガニ、ヤマトヌマエビなどの海との連続性を指標する動物が見られています。
- ・田代地区は、市街地に近く、埋め立てという大変化にもかかわらず、様々な自然環境保全対策を実施し、その結果として、これほどの質の自然が維持されていることは、大変すばらしいことと言え、島田市の「宝」ともいえる場所と考えられます。
- ・今後ともこの豊かな自然環境が末永く維持されていくことが望まれます。

資料編

「田代の郷ガイドブック 資料編」は、島田市オープンデータカタログからアクセスできます。島田市オープンデータカタログは、島田市で整備しているオープンデータの利活用環境の整備を目的としたポータルサイトです。下記リンク、もしくはQRコードから御確認ください。

	田代の郷ガイドブック 資料編
URL	http://dos-green-ci-tea.com/dataset/649498427.html
QRコード	

オープンデータカタログには、この「田代の郷ガイドブック 本編」と「田代の郷ガイドブック 概要版（田代の郷ウォーキングマップ）」のデータも掲載されております。

	田代の郷ガイドブック 本編	概要版（田代の郷ウォーキングマップ）
URL	http://dos-green-ci-tea.com/dataset/638532277.html	http://dos-green-ci-tea.com/dataset/649488724.html
QRコード		

*** * * ご注意 * * ***

ダウンロードは個人の範囲で行う場合は自由ですが、資料を商用や企業活動等の目的のために無断で使用することは禁じます。また、個人や研究の範囲であっても資料作成などで使用される場合は、出典を記載するようにしてください。

島田市伊太田代地区

田代の郷ガイドブック

2023（令和5）年3月 発行

発行：島田市 地域生活部 環境課

〒427-0034 静岡県島田市伊太7番地の1

島田市田代環境プラザ内

電話：0547-36-7145 FAX：0547-34-5501

E-mail：kankyo@city.shimada.lg.jp